

町長所信表明

本日、令和7年第4回芦屋町議会定例会の開会にあたり、町長として初めて本会議に臨む機会をいただきました。この場をお借りして、町長としての所信の一端を述べさせていただき、議員の皆さま並びに町民の皆さまに芦屋町のまちづくりへのご理解、ご協力を賜りたいと存じます。

この度、多くの町民の皆さまをはじめ各方面からの温かいご支援、ご厚情を賜り、第36代芦屋町長に就任しました。振り返りますと、平成19年4月に芦屋町議会議員に初当選させていただき、議員として、また故郷を愛する町民の一人として、芦屋町の住民福祉の向上のため、邁進してきました。めまぐるしく状況が変化する日本社会ですが、今後は執行機関の長として、芦屋町の発展に全力で取り組んでまいります。特に今は物価高騰や豪雨災害などから町民の皆さまの生活をしっかりと守っていく必要があると考えています。また、芦屋町の限られた土地の有効活用や海など芦屋町の豊かな資源を生かして町をもう一步前進させたいと考えています。

私は、先の町長選への立候補にあたり、「故郷（あしや）創生の3本柱」を、マニフェストとして掲げさせていただきました。

1つ目の柱は、「安心と誇りを、未来へつなぐ芦屋町」でございます。

町民の皆さまの暮らしを守り、芦屋町を一步前進させてまいります。

2つ目の柱は、「国と県と連携し、未来をつくる芦屋町」でございます。

未来を創る芦屋町の事業を国、県としっかり連携し力強く推進してまいります。

3つ目の柱は、「財源なくして安心(福祉)なし。財源確保による、未来ゆたかな芦屋町」でございます。

ボートレース芦屋の振興により、未来を見据えしっかりと財源確保をしてまいります。

これらの「故郷（あしや）創生」の3本柱を実現するための具体的な施策について、その主な内容をご説明いたします。

まず、「**芦屋町を守る**」の**1点目は「暮らしを守る**」でございます。

町民の皆さまの暮らしを守るため、芦屋町ではこれまで、前波多野町長のもと、生活支援や子育て支援、高齢者や障がい者支援など多種多様な支援策、補助事業を進めてまいりました。

全国でもトップクラスといえるこれらの政策を踏襲していくと同時に、検証のうえ改善あるいは新たな政策で、町民の皆さまの暮らしを守り、皆さまとともに満足できる政策の実現に取り組んでまいります。

2点目は「災害から守る」でございます。

8月の九州北部豪雨で災害が発生した場所を検証し、改善に取り組むとともに、山鹿地区の冠水対策を図るため、排水ポンプの能力向上を県、国に強く働きかけてまいります。また、日頃から防災減災に取り組むため、防災専門部署の設置に向け検討してまいります。

3点目は「産業を守る」でございます。

商工業、農業、漁業者の方が持続可能で発展していくため、プレミアム商品券の発行や有害鳥獣対策などに取り組んでまいります。

4点目は「子どもたちを守る」でございます。

酷暑対策として、小中学生が安全・安心に体育館を利用できる環境を整えるため、小中学校体育館へのエアコン設置に取り組んでまいります。

次に「**芦屋町を一步前に**」の1点目は「**こどもから大人まで安心して集える居場所づくり**」でございます。

小さなお子さまからお年寄りまで町民全ての方が利用できる入浴施設の建設などを目指し、検討してまいります。

2点目は「土地の有効活用で成長戦略」でございます。

将来の定住促進や新しい産業の誘致に繋げていくため、高浜町営住宅や中央病院跡地などの活用を検討してまいります。

3点目は「海を生かした町づくり」でございます。

令和8年度、芦屋港にボートパーク及び魚釣施設の開業を予定しております。海の魅力を最大限に生かした芦屋港のレジャー港化をこれまでの取り組みと成果を踏まえ、一步前へ進め、観光振興と交流人口の増加を図るとともに、町外からの来訪者だけでなく、町民の皆さまにも楽しんでいただける港づくりを目指してまいります。

4点目は「芦屋基地との連携強化」でございます。

我が国を守り、全国から集まる自衛官の皆さまとさらなる連携強化を図り、地域力を前進させてまいります。

これらにつきましては、選挙を通じて町民の皆さまと交わした約束でございますので、行政内部で十分協議を行ったうえで、町の実施計画に位置づけて推進してまいりたいと考えております。

最後に、私が描く未来は、町民の皆さまが「芦屋に住んでいて良かった」と心から感じ、誇りを持てる町でございます。「住んでいてよかった」と思えるのはどのような町の姿なのか、町民の皆さまの声を聞かせていただきながら、現在、住んでいる皆さま、移住して来られた皆さま、そして、

これから生まれてくる子どもたちが生涯にわたり、安心して住み続けられる町を目指して取り組んでまいります。そのために、4年間しっかり仕事をさせていただく決意でございます。何とぞご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます、私の所信とさせていただきます。